

さいたま市教組新聞

新年明けまして おめでとうございませす

二〇二一年

新春



治水橋からの2021年初日の出
(撮影 長島大志)

新年にあたって

～とらえ直そう子どもの発達 必要な子どもたちの豊かな出会い～

さいたま市教職員組合 執行委員長 大澤 博

編集・発行/
さいたま市
教職員組合
〒330-0843
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2021.1.18(月)
No. 267

あけましておめでとうございませす。昨年は、カンプや少人数学級署名などで後押ししていただきありがとうございました。しかし、教育委員会が議会でも少人数学級に後ろ向きな答弁に終始したことや、GIGAまつしぐらで忙しい時期に研修を押し付けたことに対しては強い失望と怒りを感じています。10万人拍手やいじめ防止動画作成に見られる上意下達も問題が多く、真に子どもたちや現場の教職員のことを考えた施策とは言い難いものです。

先日、ある執行委員と話す機会がありました。私の三男は新年度小1で、彼の息子さんは小2です。2人の共通した思いは「さいたま市で学ばせたくないよね」です。理由はGIGAの先取りです。研修での動画の中に、タブレットで学習すると消しゴムで消して机の上のカスを集めて捨てるという手間が省けますという場面があつて、彼は「その一連の作業の中でどれだけ手の巧緻性が必要か。無駄なように見え、て実ほとても必要なこと。さいたま市が、教育の口でもない人をボンと連れてきてこうやりなさいということに恐ろしさを感ずる。」と言いました。またある管理職は、「これからはランドセルを背負うのではなくタブレットをぶら下げて登校するイメージ」と伝えられ、「紙とえんぴつでの学習が大事では？」と反論すると「あなほ古い」と言われたそうです。私は、「自分の息子には、ナイフで鉛筆を削らせたいくらいですけどね。」という、その方は「自分もそうだ」と同意してくれました。ちなみに同じ職場で素敵な点描画を描く美術の先生が大学に入つてはじめてやったのは鉛筆をひたすらナイフで削ることだったそうです。教育委員会は人間の発達をどう捉えているのでしょうか？

視力低下などの健康被害も心配です。国の方針でタブレットの使用を授業の2分の1以下にするという制限がなくなつたので、さいたま市でも毎時間使うようにという指示が出るかも知れません。中高生くらいになれば、自分で気をつけることができるかも知れませんが、小学校低学年から強制され、実験台にされてはたまりません。

今度、小4になる息子はもう1年半ほど登校班で登校できず、教室まで送る日々ですが、校門付近で仲の良い友だちを見つけたときは走つて行つてしまします。一人は昆虫係がきっかけで仲良くなつたようですが、ほんとうにありがたいことです。ある先輩教師に教えられた事があります。「私たちは、毎日顔を会わせていても、本当に出会つているとは限らない。何気なく過ごして、関わることがなければ気づかずに過ぎていく。ケンカしたりトラブルでぶつかったとき、困ったとき、本気でともに一つのことに取り組んだとき、その人の意外な部分にふれて、心が通じたりするものだ。人は同じように見えて毎日確実に変わっていく。このことに確信を持つこと。」「学校では、生身の人間としての関わりを大切にしたい。私たちは、この生きにくい世の中をともに生きる仲間として、子どもたちの豊かな出会いや発達を補償しなければならぬという思いをいっそう強くしました。今年もよろしくお願ひします。

あけましておめでとうございませす。昨年は、カンプや少人数学級署名などで後押ししていただきありがとうございました。しかし、教育委員会が議会でも少人数学級に後ろ向きな答弁に終始したことや、GIGAまつしぐらで忙しい時期に研修を押し付けたことに対しては強い失望と怒りを感じています。10万人拍手やいじめ防止動画作成に見られる上意下達も問題が多く、真に子どもたちや現場の教職員のことを考えた施策とは言い難いものです。

先日、ある執行委員と話す機会がありました。私の三男は新年度小1で、彼の息子さんは小2です。2人の共通した思いは「さいたま市で学ばせたくないよね」です。理由はGIGAの先取りです。研修での動画の中に、タブレットで学習すると消しゴムで消して机の上のカスを集めて捨てるという手間が省けますという場面があつて、彼は「その一連の作業の中でどれだけ手の巧緻性が必要か。無駄なように見え、て実ほとても必要なこと。さいたま市が、教育の口でもない人をボンと連れてきてこうやりなさいということに恐ろしさを感ずる。」と言いました。またある管理職は、「これからはランドセルを背負うのではなくタブレットをぶら下げて登校するイメージ」と伝えられ、「紙とえんぴつでの学習が大事では？」と反論すると「あなほ古い」と言われたそうです。私は、「自分の息子には、ナイフで鉛筆を削らせたいくらいですけどね。」という、その方は「自分もそうだ」と同意してくれました。ちなみに同じ職場で素敵な点描画を描く美術の先生が大学に入つてはじめてやったのは鉛筆をひたすらナイフで削ることだったそうです。教育委員会は人間の発達をどう捉えているのでしょうか？

視力低下などの健康被害も心配です。国の方針でタブレットの使用を授業の2分の1以下にするという制限がなくなつたので、さいたま市でも毎時間使うようにという指示が出るかも知れません。中高生くらいになれば、自分で気をつけることができるかも知れませんが、小学校低学年から強制され、実験台にされてはたまりません。

今度、小4になる息子はもう1年半ほど登校班で登校できず、教室まで送る日々ですが、校門付近で仲の良い友だちを見つけたときは走つて行つてしまします。一人は昆虫係がきっかけで仲良くなつたようですが、ほんとうにありがたいことです。ある先輩教師に教えられた事があります。「私たちは、毎日顔を会わせていても、本当に出会つているとは限らない。何気なく過ごして、関わることがなければ気づかずに過ぎていく。ケンカしたりトラブルでぶつかったとき、困ったとき、本気でともに一つのことに取り組んだとき、その人の意外な部分にふれて、心が通じたりするものだ。人は同じように見えて毎日確実に変わっていく。このことに確信を持つこと。」「学校では、生身の人間としての関わりを大切にしたい。私たちは、この生きにくい世の中をともに生きる仲間として、子どもたちの豊かな出会いや発達を補償しなければならぬという思いをいっそう強くしました。今年もよろしくお願ひします。